

宮前珠子, 他: 東日本大震災被災地における意味ある作業の開発

—岩手県T村 T 仮設団地 S 地区女性部メンバーを対象としたアクションリサーチ—

【実践報告】

東日本大震災被災地における意味ある作業の開発

—岩手県T村 T 仮設団地 S 地区女性部メンバーを対象としたアクションリサーチ—

宮前 珠子¹⁾, 山田 美代子²⁾, 鈴木 達也¹⁾, 佐野 哲也³⁾, 鴨藤 祐輔⁴⁾

1) 聖隷クリストファー大学

2) 静岡英和学院大学

3) 浜松医科大学付属病院

4) JA 静岡厚生連遠州病院 (院生)

要旨

2011年3月の東日本大震災によって岩手県沿岸部の漁村, S地区は壊滅的な被害を受けた。T仮設団地に暮らすS地区女性部メンバーを対象に「研究者と対象者が共同して望ましい作業を展開する」アクションリサーチを行った。2012年7月から2013年8月まで6回訪問し, 参加者は14～20名であった。プログラムは, 各種物作りと話合い・歌などで構成し, 参加者のフィードバックをもとに新たな作業を展開した。これまでに行った作業は, 物作りでは, 生キャラメル, 布草履, ケーキ, クッキー, アンデルセン, おでん, 樹脂粘土のアクセサリーであり, そのほかに, KJ法による話合い, ハープと歌, 歌の集い, ワールドカフェなどを行った。2013年度になって始めたアクセサリー作りは参加者の気持ちを捉え, また, 販売と収益に結び付くものになりつつある。

キーワード: 東日本大震災, 仮設住宅, 作業

1. はじめに

作業療法の目的は、その人にとって重要で意味のある作業を明らかにし、その可能化を通して人々の健康に寄与することである。

遠隔地で災害が起きたとき、私達作業療法士はどのような形で支援が出来るであろうか？2011年3月の東日本大震災が起こったとき、とりあえず私達に出来たのは、各種団体の呼びかけに応じて、金銭と物品の寄附をすることだけであった。このようなとき、実際に何が起きているのか、具体的に何が求められているのか、寄附以外に自分達に何か出来ることがあるのかについては遠く離れた場所には実感として伝わってこない。

出来れば何かしたいが何も出来ない、とジレンマを感じていたとき、かつて大学時代に第一筆者がクラブ活動で訪問し、夏休みに小学校で緑陰子供会を開催していた岩手県沿岸部のT村S地区が、津波によって壊滅的な被害を受け、殆どの住民が高台にある中学校のT仮設団地に暮らしていることがわかった。

そこで2012年4月、大学時代のクラブ活動メンバーで、つてを頼って訪問することとし、当日T仮設団地集会所で行われていたS地区女性部（参加者約20名）の行事に参加し、昼食を共にし交流会を持った。このとき2名の世話役と話し合い、作業提供について打診したところ、受け入れの返答を得たので、2012年7月より訪問を開始した。7月は打ち合わせと情報収集をかねて訪問し、仮設団地世話役および保健センター担当者との話し合い、対象はS地区女性部メンバー約20名となった。

この研究の目的は、T仮設団地に暮らすS地区女性部メンバーのうち希望者を対象に、対象者にとって意味ある作業を開発することを通し

て、参加者の思いを現実のものにすることであった。

なお、本活動の実施メンバーは聖隷クリストファー大学大学院リハビリテーション科学研究科作業行動開発学研究室所属院生もしくは修了生であり、筆者のうち4名が作業療法士、1名が音楽療法士である。また研究経費は聖隷クリストファー大学共同研究費を得て行った。

2. 方法

対象：岩手県沿岸部の漁村、T村S地区女性部メンバーのうち各作業への参加希望者

作業内容の決定と実施手順：当初、参加予定者全員に対し「作業行為マネジメント」用紙を用いて、半構成的インタビューを行い、作業に関する希望を明らかにし、その結果をもとに作業内容を定めることにしていた。

しかし、初回（2012年7月）訪問時、この調査の実施を打診したところ、対象者は被災後様々な調査を受けており、もう調査にはうんざりしている、というネガティブな反応があったため、予定した半構成的インタビューは行わず、具体的に提供できる作業をいくつか示し、その中から行いたい作業を話し合いによって選択してもらうこととした。その後は1回ごとの振り返りから作業内容を定めることとし、また、作業選択のためのフィードバックとして2012年11月および2013年3月にアンケートを実施した。

アンケート内容はできるだけ簡単に答えられるものとするため、それまでに実施した作業への参加の有無、参加した作業が楽しかったか否か、再度の実施を希望するか、そのほかに行いたい作業名、及び自由記載の感想と希望とした。また、アンケートは無記名とし、返信用封筒を手渡し、返送を持って同意が得られたものとした。

各回の作業内容については、毎回前もってチラシを作成、送付し、世話役にメンバーへの配布を依頼した。作業の参加は希望種目のみへの参加、都合のつく時間だけの参加も可とし、時間途中からの参加、退出も自由としてその旨チラシに記載した。作業の材料等は訪問前に購入、準備し予め宅配便で集会所に送付した。昼食はお弁当を提供し、手配は世話役に依頼した。

以上のようなことから、この研究は、当初の調査研究的なものから、結果的に「研究者と研究対象者が共同して望ましい作業を展開する」アクションリサーチ(矢守, 2010)の形をとることになり、「対象者の思いに沿って柔軟に対応する」(内山, 2007)ものとなった。

訪問日程: 先方および当方の都合の良い時期で、仮設団地集会所が空いている日を選び年間4回程度、1回あたり1日~2日として計画した。

なお、本研究は聖隷クリストファー大学倫理委員会の承認を得て行った(承認番号: 2012年度: 12016, 2013年度: 13016)。

3. 結果

2012年度は4回訪問し、2013年度は8月末までに2回訪問した。表1に、1回ごとの訪問についてその概要を示した。また、この他に2013年度の2回の訪問時には世話役2名と夕食を共にし、懇談し情報収集を行った。活動を展開しつつ次の活動を共同して考え実施し、また次の活動を行うという、いわばせん状に展開するアクションリサーチの形をとることになったため、結果の記載の中にプロセスや振り返りの記載を入れる(内山, 2007, p. 203)こととする。

(1) 参加者

表1に示すように、参加者数は14名~21名、全員女性で、年齢は50代から80代であり、70代と80代が7割程度を占めた。また、種目により子供数名の参加があった。参加者の8割程度は常連であるが2割程度は出入りがあり、それぞれ好みの種目を選択したり、家の仕事の都合で参加している様子が見られた。

(2) 実施した作業

これまでに行った作業は、「物作り」+「話し合い・歌・ティータイム」(表1)というように、ハード的な物作りと、ソフトなプログラムの組み合わせになっており、これらは参加者の希望に基づいて行った。表2, 3はそれぞれ2012年11月および2013年3月に行ったアンケートのまとめである。プログラムを計画する際には、これらの結果や参加者の反応を参考に行った。2013年7, 8月の実施内容は、表3に示す3月のアンケート結果を参考に計画した。

表2, 3より、これまで実施した作業はおおむね好評であったが、その作業を「再度行いたいか」聞くと、種目によって差があり、布草履、生キャラメル作り、ケーキ作りのように手間と時間がかかり、現地では材料が手に入りにくいと思われる物は希望が少なく、アンデルセンのように材料(新聞広告の紙)が手に入りやすい物や、歌、講話、ティータイムなどその場に参加すれば良いものの人気が高かったように思われる。

物作りでは、あまり手間がかからず、出来た後個人の物になるアンデルセンやアクセサリーの希望が多いという印象がある。講話などで、今後どのように生きるべきかの話を聴きたいという希望が多い一方、「KJ法と話し合い」のように自分のことに関して話すことには抵抗があるようにも感じられた。

表1. T仮設団地在住のS地区女性部メンバーと行った作業内容 -2012年7月～2013年8月 計6回の訪問について

回	日時	訪問者数 (含世話役)	参加者数	実施項目	内容	準備	備考
<2012年度>							
1	7/5(木) 15:00～17:00	4	19	・趣旨説明 ・次回に行く作業の検討	全体としての訪問の趣旨を説明。 「作業行為メソッド」のレビューを用いて作業の希望を明らかにすることを提案したが、質問紙を用いて聞き取りをすることについては同意得られず、可能な作業の選択肢を示し、次回訪問時に行う作業を話し合いで検討した。 その結果により次回に行くことを決めた。	説明書、同意書等 サンプルを示したものは各1個、うちわ作りサンプル、布草履作りサンプルと冊子口頭による提案:文集作り、歌、話し合いとKJ法	訪問者4名 中1名は大学旧クラブ活動メンバー
*次回について							
	9/16(日) 10:00～12:00		15	・生キヤラル 布草履用材料紐準備(布裂き)	生キヤラルの成果、次回は生キヤラル作り、布草履作り、KJ法による話し合い	生キヤラル材料、道具 布草履作成に必要な布、はさみ KJ法グッズ、 模造紙	2グループで
2	9/17(月・祝) 9:45～16:00	3	14	・KJ法 ・布草履	[日ごろしたかと思われていること]アトリエ・ミンクとKJ法トランプ方式によるまとめ (KJ法展開図の発表:15分) 布草履作り	必要な布 フレーム用針金ハンガー	
*次回について							
3	11/11(日) 18:00～20:00	3 (含子供2名)	19	・ティータイム ・折りのたて琴	ティータイム レアリガリア(折りのたて琴) キヤラル氏によるハーブと歌	お茶、キャンデー、紙コップ等 ハーブを予め送付、アイマスク、キャントル	訪問者4名 中2名は大学旧クラブ関係者
*アンケート、返信用封筒配布							
	3/24(日) 9:45～16:00	18	18	・お菓子作り ・アンデルセン	アンケート:これまでの作業について、これからの作業の希望 →結果より次回はお菓子作り、アンデルセン、歌の集いとなる	お菓子の材料、道具、レピーのコーン人数分 静岡おでん材料 アンデルセンの材料、道具	
4	3/25(月) 9:45～13:00	5	18	・歌の集い ・静岡おでん	歌の集い:テーマ:ご当地ソング 静岡おでん作り	歌詞紙多数、静岡、浜松名物地図 おでん串、紙皿など	
*アンケート、返信用封筒配布							
<2013年度>							
	7/14(日) 9:50～12:00	16	16	・今年度の趣旨説明等 ・樹脂粘土のアクセサリー	アンケート:これまでの作業について、これからの作業の希望 →結果より次回は樹脂粘土アクセサリー、歌等となる	説明書、同意書等 樹脂粘土、アクセサリー用金具、紐、ビーズ、カッター、ペンチ等 オープンは現地で借用	訪問者4名 中2名は大学旧クラブ活動メンバー
5	13:00～13:40 14:00～14:30 14:30～15:30	4	4	・歌の集い ・ティータイム ・ごまの集い	歌の集い テーマ:一日の作業 ティータイム ごまの集い:大学旧クラブメンバーによるアメリカの童話	歌詞紙多数 お茶、お菓子 フェルトなど	
	7/15(月) 9:45～11:30	16	16	・樹脂粘土のアクセサリー	樹脂粘土のアクセサリー作り、プレスレット完成	前日に作成した樹脂粘土ビーズ、組み立て材料	
*次回について							
	8/20(火) 9:15～10:15	21 (含子供2名)	21	・ワールドカフェ ・樹脂粘土のアクセサリー	ネットレスの組み立ての時間がなかったため、8月再度訪問を決める ワールドカフェ:どんな作業が良いか、グループに分かれて話し合いとまとめ	文房具	5グループで
6	10:20～14:30	5	5	・樹脂粘土のアクセサリー	樹脂粘土アクセサリーの組み立て:ネットレス (この後他団体の行事あり、早く終わる)	7月に作った樹脂粘土ビーズ、組み立て材料各種 樹脂粘土、アクセサリー用金具、紐、ビーズ、カッター、ペンチ等	10月に行われる復興祭に商品として出す 案が出る
	8/21(水) 9:15～12:00	14	14	・ "	樹脂粘土:自由作品		

*ワカメ作業日、ウニの口開け日と重なった日は参加者が少ない

表2 参加した作業の評価と、今後希望する作業についてアンケートまとめ (2012年11月)

配布数:16 回収数:9 (回収率:56%)			今後希望する作業		その他の希望種目(自由記載)
参加した作業について (5段階評価)			種目名	希望者数	
基準:とても楽しかった:5					
つまらなかった:1					
作業名	回答数	平均値	お菓子作り	7	コーラス、歌
生キャラメル	7	3.7	物作り	7	アクセサリー作り
KJと話合	5	4.2	話合い	2	商品に出来るお菓子作り
布草履	5	4.4	ティータイム	9	講話と話合い
ティータイム	7	4.7	ハーブと歌	8	野外に出かける
ハーブと歌	8	4.6			樹脂粘土のアクセサリー作り
					パウンドケーキ
					貝、石、流木等を利用した置物
					生ジュースを作って飲みたい

表3 参加した作業の評価と 今後の希望についてアンケートまとめ (2013年3月)

配布数:15、回収数13(回収率:76%)				今後行いたい作業	希望者数
実施作業	回答者中の参加者数	楽しかった	再度実施希望		
生キャラメル	8	6	1	樹脂粘土アクセサリー	6
kj法と話合	7	6	0	貝、石、流木の置物	4
布草履	9	9	2	ティータイムと講話	6
ティータイム	8	8	4	手作業と音楽	5
ハーブと歌	9	9	4	講話と話合い	3
ケーキ作り	9	9	3	コーラス	6
クッキー作り	9	8	4	生ジュース作り	2
アンデルセン	12	11	6	刺し子	5
歌の集い	11	9	6	ピクニック・遠足	4
静岡おでん	11	9	1		

* これまでに実施した種目(参加の有無と評価、今後の希望)

(3) 作業の意味 (斜体はアンケート回答そのままの文章)

これまでで行ってきた作業の意味については、2度のアンケートの自由記載欄から見る事が出来る(表4, 5)。内容は大きく次の3つに分ける事が出来た。まず、1) 個々の作業名、例えば、「布草履、ハーブと歌、お菓子作り、歌う、ブレスレットなど」をあげ、それらが「楽しかった、嬉しかった、感激した、すっきりした」などの感想が見られたもの。次に、2) 「様々な作業に沢山挑戦できた」ことで、「うれしさ、楽しさがあり、元気が出る」という感想、そして、3) 作業によるスピリチュアルな経験、例えば「今までのどの講座も気持ち充実しました。美しいもの、素晴らしいことにふれると感

動の涙が出てきて、もしかして先生方の療法の成果ではないかと思われま

す」や、「ブレスレット、自分でつくったもの、一つしかないブレスレット、私はあまりアクセサリー類は身につけることはなかったですがこのブレスレットはなぜか、うでにつけているとおまもりのようなきがします。ありがとうございました」などが語られている。

物作り、お菓子作りについては、作業時の雑談や世話役の話より、その時々

の楽しみとして参加している人と、「出来れば将来的に売り物になり、収入につながれば良い」と考えている人があるとのことであった。女性部では、震災前に鮭の骨の缶詰の製造を行っており、売れ行きが伸び始めた矢先の震災であり、また、駅で

アワビ弁当の販売を計画していた矢先の震災でもあった。家屋、作業場、駅、線路などすべてが流失したため、現在はS地区は更地になっているだけで何もない。役場との交渉で将来的には缶詰設備は作ってもらえることになっている

とのことである。2014年4月に復旧する鉄道と駅舎には、女性部が活動できるスペースが出来る予定であり、売店には女性部の品物を置くことが出来るということであった。

表4 アンケート1 (2012.11) の自由記載 (感想と今後の希望など)

no	感想と今後の希望
	今までこんな活動があまりなかったのでも楽しかったです。わざわざ遠くから来ていただいてありがとうございます。
1	思っております。又ハープとか普段なかなか見れない楽器とか見れたりして良かったです。時間の許す限りこれからも来てほしいです。
2	これからは前に進むことで先生達より生きてゆく楽しさ、どのように生き生活していかなければならないか等々お話を聞きたいと思います。野外でのホットも良いです。でもこれからは寒いですね。
3	色々な角度から考えてこのようなプログラムを進めて下さりありがとうございました。
4	布ぞうりは被災前から作りたかったので作れてうれしかったです。
5	何回となく遠いところをおいで下さいまして誠にありがとうございました。おいしいお弁当を皆さんで頂きホットした気持ちになりました。
6	布ぞうり、(編み物、刺し子:別に)今までやったことがなかったので全部新鮮に感じております。貴重な時間を私たちのために費やして下さい、元気を下さり、本当に感謝し、ありがとうございます。
7	今までいろいろな企画をありがとうございました。楽しく参加させて頂きました。これからもよろしく願います。

表5 アンケート2 (2013.3) の自由記載 (感想と今後の希望など)

no	感想と今後の希望
1	おいしいお弁当を皆さんでいただいてホットした気持ちになりました。アクセサリー、今までいろいろな企画ありがとうございます。
2	何度も足を運んで頂き感謝しています。
3	被災から2年になりいろいろとお世話様になりました。こうしてお菓子作りなど色々と考えて教えられたこと楽しんでおります。仮設にしているとやりたいと思ってもやれないこともあり、仮設から抜けてから教えられたことを忘れずやってみたいと思っております。
4	お菓子作り楽しく参加させて頂きました。ふだん仮設にしているとなかなか声を出して歌う機会もあまりなく久しぶりに声を出して歌うことができました。先生方が色々工夫して下さい、和やかに過ごさせてもらい本当にありがとうございました。遠いところお疲れ様でした。ごくろうさまでした。今後とも、よろしく願います。
5	歌がよかったです。声を出すことで、心も体もすっきりなったようです。色々なこと、プログラムを組んでくれてありがとうございます。
6	いつも楽しい時間をありがとうございます。初めてのことに挑戦できるうれしさと楽しさがあります。よろしく願います。
7	何度も遠いところから来て下さってありがとうございました。ケーキ作りは楽しかったです。
8	今までのどの講座も気持ちが充実しました。美しいもの、素晴らしいことにふれると感動の涙が出てきて、もしかして先生方の療法の成果ではないかと思われま。
9	浜北市きぶねという所で2年ぐらいうごした事がありなつかしかったです。プレスレット、自分でつくったもの、一つしかないプレスレット、私はあまりアクセサリー類は身につける
10	ことはなかったですがこのプレスレットはなぜか、うでにつけているとおまもりのような気がします。ありがとうございました。

(4) 実施した「物作り」の特徴と参加者の反応

先にも述べたように、作業の選択は訪問時の話合い、アンケート、世話役との懇談、訪問者側の提供可能性などから決めたが、参加者の感想については、表3の「再度の実施希望」から正直な反応を見ることが出来る。この結果と実施時の反応をあわせて考えるとそれぞれの作業について次のようなことが言える。

生キャラメル：7月に試食したときに、是非作ってみたいというポジティブな反応があったため9月の作業の1つとした。9月に実際に作成し、材料と費用について説明したところ、生クリームが現地では手に入りにくいこと、また、材料費が高く、1粒あたりの値段が高くなり、売り物にするのは困難と思われ失望の様子が感じられた。

布草履：作業中は笑い声が絶えず賑やかに楽しく作業を行っていたが、訪問中には時間不足で片足しか完成できなかった。後日別の機会を設けて完成させてほしいと依頼して帰ってきたが、実際には集まりはもたれず、ほぼ半数の参加者は未完成のままに終わった。これは1足の作成にかなりの労力が必要で、布の必要量も多く、更に草履が現地の人にとって魅力的なものに感じられなかったのではないかとと思われる。一方で非常に熱心にその後5、6足を完成させた参加者もあった。

ケーキ：生まれて初めてケーキ作りを行い、予想外に簡単にできたことから、仮設住宅を出て自宅で道具を調えることができるようになったら作ってみたいという感想が聞かれた。一方、オーブンが個人の持ち物の1台しかなく、4、5人1グループで作成したが、待ち時間が長いこと、出来栄えが安定しないこと、完成しても一人分の量が少なく、その場で少量食べると終わってしまうことなどから家族へのおみやげに

ならないということがあった。また、材料費が比較的高額で、売り物にするには困難が感じられたようである。

アンデルセン：材料が広告紙であり、作業内容が単純でテンポ良く進められることから再度作ってみたいという希望が多かった。この作業については広告紙を細く切るところまで訪問者側で準備し、参加者の作業がいわば仕上げの楽しい部分のみであったことも再度行いたいという感想に結び付いたのではないかと考えられた。

樹脂粘土のアクセサリ：この種目については終了後まだアンケートを行っていないが、これまで行った物作りの中で、最も楽しみをもたらしたものに思われる。この種目は、アンケート1の自由記載で一人の回答者から希望が出され、アンケート2の選択肢として希望を聞いたところ希望者が多かったために実施項目に選択した。

樹脂粘土のアクセサリは、見た目美しく楽しく、短時間で出来上がり、身につけることが出来、また家族や知人に贈ることも出来、震災ですべての物を失った人々にとって、とても楽しい作業になったようである。この作業については、8月の訪問後、世話役より更に作品を作りたいので材料を送ってほしいとの依頼があり、後日メンバーだけで集まって作品作りが行われたことから、この作業が参加者の心を捉えたことがうかがえる。また、売り物としても現実感があり、作り貯めもできることから、実際に2013年10月6日に行われた町の復興祈念祭に女性部から出品することになり、60個中21個が売れたと言うことであった。これまでお祭りでは食べ物は売れるが、物はあまり売れないということであったので、食べ物以外で1日にこれだけ売れたということはかなり売れ行

きが良いとのことであった。このことについては祈念祭終了後すぐに世話役から電話と手紙があり、震災後女性部で作った品物が売れたことのうれしさが伝わってきた。なお、材料費は売価の約 1/3 程度であった。

(5) 交流

当初は参加者にとっては私達のことがよくわからず、また私たちも受け入れてもらえるかどうかよく分からず、ぎこちない雰囲気が始まったが、第2回訪問で布草履などの作業を共同で進めるうちに、次第に打ち解け、11月の訪問では顔を見るなりにこやかに挨拶を交わすようになり、旧知の間柄のような雰囲気が生まれるようになった。

作業の時間は参加者にとって日常のしがらみから離れる別空間・別時間になるように、参加者の背景や震災経験についてことさら聞くことはせず、作業を楽しむ時間を提供するようにしている。このような姿勢が、参加者の感想に結びついているように思われる。

以上、これまで約2年半にわたる6回の訪問時に行った作業の内容、アンケートによる作業のフィードバックと今後の希望、感想などについて纏めた。

次に、この活動をアクションリサーチという観点から考察する。

4. 考察

内山 (2007, p. 287) は、「アクションリサーチでは、前後の見方、考え方、感じ方の差を明確にし、研究前の思いと研究後の思いを比較する」という。

研究前、私達の思いは「仮設団地で不自由な生活をしている人々が、どのようなことに困っ

ていて、何をしたいと思っているか」半構成的インタビューによって明らかにし、それに基づいて行う作業を決めたいと考えていた。しかし、対象者の思いは「そのような調査は震災後何回も受けたが、調査対象になっただけで終わった。そういうことはしてほしくない、具体的な作業がしたい」ということであった。

そこで私達は、対象者の思いを尊重し、その都度提供できる作業の選択肢を複数示しては、その中からしてみたいことを話し合い、もしくはアンケートによって聞き取り、実施する作業を決めていった。対象者はそれまでしたことのない作業を行い、その経験を通して、また次に行いたい作業を選ぶという経験をしてきた。

アクションリサーチの目指していることは、「経験を通して行為から学ぶ」(内山, 2007, p. 5) ということであり、「行為を対象的なモノとして第三者的に研究するのではなく、当事者として行為に関わり行為の中から学んでいく」ということである。この視点から今回の対象者は、それまで経験したことのない作業について説明を聞き、興味あるものを選び、当事者として実際に手足と五感を使って経験し、その経験を通して行為から学び、また次の作業を選択するというを行ってきた。

アクションリサーチでは、実証主義の「仮説/検証」とは関係なく、対象者の思いをモデルにして(仮説)、それをもとにアクションプランを作成し、その実行計画のデータと、初めの思いの差異から学習し、そこから対象者に対する見方考え方を改善して次のアクションプランに生かそうとする(内山, 2007, p. 141)。我々は、毎回の作業の振り返りと、実施した作業についての参加者のフィードバックとアンケート結果、また、世話役との話し合いから対象者の思いを明らかにし、それに沿ったプランを作成し実

施し, またその中から次のアクションプランを作成してきたと言える.

様々な作業をする中で私達が感じた対象者のもう一つの思いは, 身体的負担が少なく, みんなで集まって楽しく繰り返し行うことが出来, 販売に結び付き, 収入が得られる作業を見つきたいということであった. 2013年7, 8月に経験した「樹脂粘土のアクセサリ作り」がこの条件をある程度満たすことになり, 10月の復興祈念祭で少なからず売れたという経験が今後の女性部としての行動に結び付いてゆくのでは

ないかと思われる.

今後も対象者の思いを現実化する活動を目指したいと考えている.

5. 文献

- 内山研一: 現場の学としてのアクションリサーチ. -ソフトシステム方法論の日本的再構築-. 白桃書房. 2007
- 矢守克也: アクションリサーチ. -実践する人間科学-. 新曜社. 2010

【実践報告】

Providing Meaningful Occupations at Temporary Housing in the Disaster Area of the Great East Japan Earthquake

Miyamae Tamako OTR¹⁾, Yamada Miyoko MT²⁾, Suzuki Tatsuya OTR¹⁾
Sano Tetsuya OTR³⁾, Kamotou Yuusuke OTR⁴⁾

- 1) Seirei Christopher University
- 2) Sizuoka Eiwa Gakuin University
- 3) Hamamatu Medical University Hospital
- 4) JA Ennshuu Hospital

Abstract

A village located in a seaside area of the Iwate Prefecture was tremendously damaged by the tsunami of the Great East Japan Earthquake in March, 2011.

The purpose of this project was to provide meaningful occupations for the residents of temporary housing. Between fourteen to twenty members of district S, living in temporary housing, participated in this project. The occupations provided were decided each time according to the results of interviews or questionnaires.

Occupations provided were as follows:

1. September 16, 17, 2012 : Making of soft caramel (Nama-caramel). Discussion and conclusions using the KJ method. Making of fabric sandals. (18 participants)
2. November 11, 2012 : Providing "Feel Easy" time: tea time, songs with a harp accompaniment (19 participants)
3. March 23, 24, 2013 : Baking of cakes and cookies, making Andersen bracelets, preparing the Shizuoka hot pot stew, and sing song. (18 participants)
4. July 14, 15, & Aug. 20, 21, 2013 : Making necklaces & bracelets with Polymer clay. (16 & 21 participants respectively)

This program can be roughly categorized into craftwork, sweets making, music, food and drink, and discussion. Participants seemed refreshed after experiencing a number of different occupations, as many desired variety. The results of the questionnaire conducted in March also showed that requests for new occupations were more than numerous for those already performed. We provided various kinds of occupations according to the requests from the participants, though not enough, in their time of need.

Key Words : the Great East Japan Earthquake, occupation, temporary housing